



地域研究集会

第9回東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会 水産 ICT の現状と課題

日時：2023年1月21日（土）13:00～17:00

会場：水産研究・教育機構塩釜庁舎会議室（宮城県塩釜市新浜町 3-27-5）とオンライン（Microsoft Teams）のハイブリッド*

コンピーナー：笥 茂穂（水産機構資源研）

共催：国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所

現地定員：30人（締切日前に定員に達した場合、その時点で締切となります）

*新型コロナウイルス感染症の拡大状況によりオンラインのみに変更する場合があります。

オンライン申し込み：事前予約制による参加方式とします。参加希望者は1月13日（金）までに Microsoft Forms の以下のアドレスから参加申し込みをお願いします。

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=tzClfNwEI0mgLrTqozK6SpK8_3enyXhOIHm7OCwyVU5UOUVURU9NSDFOTzQxRTY2WkRESzEyU05GOC4u

集約の都合から現地を希望されている場合でもオンラインでの参加に変更をお願いする場合があります。

プログラム

全体司会：笥 茂穂（水産機構資源研）

挨拶 木村 伸吾（水産海洋学会会長）

趣旨説明 笥 茂穂（水産機構資源研）

13:05～13:10

話題

1. 水産業への ICT の導入 和田 雅昭（はこだて未来大）

13:10～13:40

2. 水産 ICT にかかわるアプリケーション開発 鈴木 宏輔（アンデックス株式会社）

13:40～14:10

3. AI によるマガキ幼生同定技術の開発 関内 孝行（株式会社プロトソリューション）

14:10～14:40

休憩

14:40～14:50

4. AI を用いた魚種判別および全長推定手法の開発 柴田 泰宙（水産機構資源研）

14:50～15:20

5. 養殖場における ICT の活用と課題 田村 直司（岩手大）

15:20～15:40

6. ICT 機器を用いた海洋データの収集と海洋モデルへの同化

河野 史郎 (いであ株式会社)

15:40～16:10

総合討論

進行： 笥 茂穂 (水産機構資源研)

16:10～16:55

閉会挨拶

笥 茂穂 (水産機構資源研)

16:55～17:00

開催趣旨：

水産庁は ICT, IoT 等の先端技術の活用により、水産資源の持続的利用と水産業の産業としての持続的成長の両立を実現する次世代の水産業として「スマート水産業」の取組を開始した。ICT プイを用いた環境のモニタリングや AI 画像認識を用いた魚種判別など水産にかかわる ICT の開発・導入が進みつつある。本研究集会では、東北太平洋岸地域の内外で実施されている取組について紹介し、導入のメリット・デメリット、導入や運用にかかわるコスト等の課題について議論する。

備考：2022 年度より「三陸海域の水産業と海洋研究集会」を「東北太平洋岸の水産業と海洋研究集会」として、研究集会の目的を引き継ぎつつ、より広域に話題を扱うものとする。